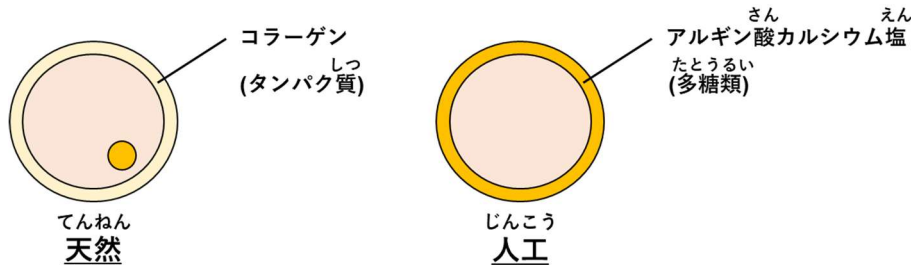


いろあざ 色鮮やかな人工イクラをつく

しんしゅうだいがくこうがくぶ ぶんししゅうごうたいかがくけんきゅうしつ
信州大学工学部 分子集合体化学研究室

てんねん 天然のイクラはたんぱく質からなる膜でできていますが、じんこう 人工のイクラは

たとうるい 多糖類からなる膜でできています。じんこう 人工イクラを作り、げんり 原理を学びましょう！



【用意するもの】

アルギン酸ナトリウム、塩化カルシウム、水、容器、スポイト、絵具、茶こし

【溶液の作り方】

A液：アルギン酸ナトリウムを水に加え、溶けるまで混ぜる。

(A液には絵具を加え、色を付ける)

B液：塩化カルシウムを水に加え、溶けるまで混ぜる。

※時間の都合上、溶液はあらかじめ作ってあります。

【人工イクラの作り方】

スポイトでA液を吸い、容器に入れたB液の上から1滴ずつゆっくりと落とし
ます。できた人工イクラを茶こしですくってみましょう。